

剣岳早月尾根ルート 山行報告書				和歌山県勤労者山岳連盟 紀峰山の会 Ver_20240516	
事務所：〒641-0044 和歌山市今福1丁目1-11 アマノマンション202号					
山行報告書提出日		2025年 8月 24日		報告書記入者 T.M	
山行期間		2025年 8月 22日（金）～ 2025年 8月 23日（土）			
山名・山域		剣岳早月尾根ルート・飛驒山脈立山連峰		登山方法 ハイキング	
				主催グループ シリウス	
山行目的他 山行区分		試練と憧れ 早月尾根ルートを踏破する		☐ 会山行 ☐ 公開山行 ☒ 自主山行	
				☐ その他山行	
参加メンバー					
任務	氏名	任務	氏名	任務	氏名
CL	T.M				
SL	K.T				
	A.T				
	H.T				
ルート図				時刻	
				場所	
				24：30 22日(金)南海フェリー和歌山港発	
				06：00 馬場島荘駐車場着仮眠	
				08：45 登山開始	
				13：37 早月小屋(宿泊)	
				03：52 21日(土)登山開始	
				06：31 剣岳登頂	
				09：26 早月小屋	
				13：29 馬場島駐車場 下山報告	
				：	
				21：10 南海フェリー和歌山港解散	
山行記録					
昨年から考えていた『早月尾根ルート』をシリウス班3人と元会員のTさんとで踏破してきました。和歌山から車移動で馬場島に朝6時に到着し、少しの仮眠のあと、8時45分に出発。登山口の石碑『試練と憧れ』にあるように、早月尾根は開始早々僕たちに試練を与えた。1日目は早月小屋までの5キロの行程ではあるが、登り一辺倒で累計獲得標高は1474mにもなった。風も無く気温も高かったため、汗は吹き出し、休憩を取りながらの登山となる。ほぼ計画通り13時37分に早月小屋に到着。早月小屋までは難しいところは無いが、一步一步の段差がかなり大きく、普段のトレーニングや重量のある荷物を背負っての夏山をこなしていないと、ここには来てはいけないと実感した。また、年齢からくる体力的な影響がモロに出る登山であるとも感じた。夕食後荷造りして19時には就寝。翌日3時50分から登山開始。不要な荷物は小屋にデポジットし軽快にスタート。岩場の難所でもハーネスやザイルを使う場面は一切なく、少し期待外れ感が。山行リーダーT.Mのペース配分が悪いので、2日目はT.Aさんに先頭を交代。危なげなく6時半に剣岳山頂着。記念撮影など行い、7時18分下山開始。難なく早月小屋に着き、水分補給のあと下山を開始したが、この登山の核心は『早月小屋からの下山』にあったと感じた。馬場島まで滑ったり転んだりを繰り返し、何とか13時半には馬場島に到着したが、もうバテバテ。当然、翌日に予定していた『薬師岳登山』も中止し、温泉入浴後直ぐに帰路に着いた。※金沢市内の回転寿司（全く回っていない）に寄りましたが。 TIME13:53、距離14.6km、累計獲得標高2334m・下り2337m ペースYAMAPコースタイムの113%【休憩時間を除く】					
トラブルなど					
登山開始後よりH.Tさんに疲れが出てきた。仕事も忙しく、しばらく、本格的な登山から遠ざかっていたとのこと。少しペースを落とし、2日目の下山時には荷物を持つなどして対処した。Mが皆の許しを得て、下りでトレラン兄ちゃんを追いかけたが、あっという間に見えなくなった。1キロほど走ったせいで翌日筋肉痛を発症。『本場のトレラン兄ちゃんを追っかけてはならない』ことが学習できた。					
その他感想等					
早月尾根ルートに来ている登山者は健脚ばかり。また年齢層も若く、多くの猛者たちとの出会いがあり、黒戸尾根ルート同様、登山者やトレランさん達から良い刺激を受けた。若者達の多くは日帰りで早月尾根に挑んでおり、深夜23時～早朝4時まで馬場島公共駐車場を出発していた。チャレンジかと言うとそうでもなく、彼らの通常運行がこれなのだと感じた。これまでシンディ登山をしていたつもりであったが、『つもり』であったことが、よく理解できた。すれ違う登山者やトレランさん達の歩様は安定していた。無駄のない動きで体幹をキレイに使って登り降りしており、普段のトレーニングや生活習慣から得られるものだと感じられた。※試練と憧れ、また例年も行きたいですね。					